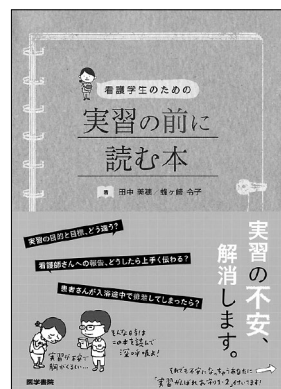


『看護学生のための実習の前に読む本』 実習の“結果”を変える一冊

著：田中美穂・蜂ヶ崎令子／定価：本体 1,500 円＋税
発行：医学書院／TEL：03-3817-5657



現行カリキュラムでは看護実践能力の強化が強調されました。看護実践能力を高めていく現場が臨地実習です。実習では実際に患者さんや、その患者さんに日々ケアをしている先輩看護師にふれる体験を通して、ものの感じ方、考え方、人間としてのあり方を学ぶことができます。実習は体験学習であり、多くの学生が不安を抱き、緊張もします。その状態ですと、自分の力を発揮するどころか実習が辛く嫌いなものとなってしまうがちです。

本書では、学生が実習中に乗り越えるべき課題を、どのように考え、行動し、解決したらよいのかを紹介しています。実際の学生の実習進度に沿って書かれており、『実習前対策』では、実習前に確認しておきたい実習目的および実習目標の理解の重要性や自分の免疫力を知っておくことなどが紹介されています。すなわち、実習とは患者さんとの出会いの前に始まっていることを説いています。看護師が怖い、厳しい、声をかけづらいという不安で「看護師への報告が大変!」と感想を抱く学生へのヒントとして、『指導者との関係』のかなかで、どんな人間関係を築けばよいのか、伝わる報告のコツを説いています。

文書を書くのが苦手な学生に対しては、『実習記録の書き方』のかなかで基本的なルールが紹介されています。実習記録はメールやつぶやきと違うこと、

個人情報の取り扱い方も説いています。学生は、実習の準備の一つとして、本書を活用できます。準備を整えることで、自分のなかにこれから臨む実習のイメージが浮かびます。そうすると「次はこれをしてみよう、準備しよう」となります。するとそれまで抱いていた不安や緊張は解消されます。準備を「整えるプロセス」を考えると、実習の第一歩は準備と言えます。

読み終えたとき、著者からのエールが学生に届くこと間違いありません。

教員や臨床指導者になったけれど指導方法がわからない、不安を抱えている方へのヒントもつまっています。『看護援助技術』の項目では、自立度に応じた援助方法の考え方、見極め方など指導のヒントが得られます。自分の指導と同じものを発見し、自分のかかわりで間違っていなかったと実感でき自信にも繋がります。

最後に私が座右の銘としている言葉を紹介します。それは『視点が変われば語る言葉が変わり行為が変わり、そして結果が変わります』です。本書はその言葉と重なります。読み、実践することによって、思考が広がっていくように感じます。実習に臨む学生はもちろん、教員の皆さん、臨地で指導に携わる指導者さんにも是非読んでいただきたい書籍の一つです。